

令和4年度 第1回 福井鉄道福武線活性化連携協議会 議事録

日 時： 令和5年2月14日(火) 14:00～15:30
場 所： 福井県織協ビル602号室
出席者： 別紙出席者名簿のとおり
資 料： 別紙資料のとおり

開会

1 会長挨拶(福井市長(代理：桑原都市戦略部長))

2 議事

規約第8条第3項により川本委員を座長に選任した後、川本座長が会議の議長となって議事が進行された。

座長

只今ご指名を頂きました福井大学の川本でございます。よろしくお願いいたします。
次第に沿って進めさせていただきます。まず報告(1)について説明をお願いします。

報告(1) 福井鉄道からの報告について

福井鉄道 村田社長より資料説明(報告(1))資料参照)

<意見等>

○座長

ご説明ありがとうございました。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

今年度の乗車実績について、令和4年12月までで141万人とのことですが、3月までで何万人を見込んでいるとのことでしたか。

○委員(福井鉄道)

178万人を達成できると見込んでいるところです。

○座長

まだコロナ禍にあるので、それ以前までは戻っていないものの前年度よりは増加する見込みということですが、コロナ禍の影響がどの程度続くかが気になるところです。

○委員(福井鉄道)

乗車実績のピークは204万人で、そこまではなかなか戻らない状況ですが、コロナ禍の影響も弱まってきており、定期、定期外ともに徐々に増加しています。

○委員(鯖江市サポート団体)

先程のご説明で令和2年から3年に利用者が伸びており、行政からの支援を受けてとのことでしたが、どのような支援のことでしょうか。

○委員（福井鉄道）

鉄道に乗る運動であるとか割引のキャンペーンであるとか、様々な利用促進のためのご支援を頂いており、定期外を中心として利用が伸びてきた状況です。さらに、例えば公民館等での利用促進策として、従来なかなか電車を利用できない方や団体でのご利用を紹介して頂いたり、コロナが心配で利用できないとお考えの方にそういう心配はいらないと説明して頂いたりと利用促進にご協力を頂いた状況です。

○委員（鯖江市サポート団体）

そういった利用者数を増やしていくための行政からの支援は、今後も期待できるし、継続することで、さらに利用者増につながるということによろしいでしょうか。

○委員（福井鉄道）

この時期にはコロナを克服するためにいろいろなイベントもありましたが、日頃から利用頂いている皆様に利用して頂くことが大事なことで、先程も申しましたが老人会、公民館、幼稚園、保育園といったところで、従来から電車を利用している方に利用の働きかけを続けております。鯖江ですと西山公園に遠足で出かけるなど、コロナが落ち着いてくればそういった利用が回復することで利用促進につながっていくと考えています。

○座長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。3月から新しい車両の「フクラムライナー」が導入されるということで、乗車容量も増えて高校生の通学に対応できますし、運行トラブル時の代替としても効果を発揮されると思います。現在運行している「フクラム」と比べて乗車容量はどの程度となりますか。

○委員（福井鉄道）

定員数で申しますと「フクラム」は155人、「フクラムライナー」は115人となり、「フクラム」より少ないですが、座席が「フクラム」のクロスシートに対してロングシートになっており、実質的には多く乗車できると期待しているところです。

○座長

ありがとうございます。他にご質問もないようですので、報告（1）については、以上にさせていただきます。

報告（2）国への要望の実施について

福井市地域交通課 間所課長より資料説明（報告（2）資料参照）

< 意見等 >

○座長

はい、ありがとうございます。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

昨年の夏に要望を行ったということで、報道等もされました。地域にとって重要な路線

が長期間運行休止になることは地域にとって大きな影響がありますので、国はしっかりサポートする必要があるということで要望したものです。これは、福井だけでなく、他の地域も同様だと思います。今回に限らず、継続的に国に要望することも役割として重要だと思います。

よろしいでしょうか。報告（２）については、以上にさせていただきます。

報告（３）福武線再建スキーム管理部会及び福井鉄道交通圏地域公共交通網形成計画 主要施策の進捗状況について

福武線再建スキーム管理部会 川本座長、越前市総合交通課 小池課長より資料説明

（報告（３）資料参照）

<意見等>

○座長

はい、ありがとうございます。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

パークアンドライド駐車場について、先程、報告（１）でもありましたようにコロナ禍で鉄道やバスの利用から離れていたところから、自家用車の送迎を含めて利用数をどのように戻していくか、また新年度になりますと新高校生、大学生の方の交通手段の選択についても注目すべきと思います。パークアンドライド駐車場の整備で利用者が伸びている状況もありますので、利用の様子を見ながら展開できればと思います。駐車場の使用率50%が少ないと思われるかもしれませんが、使用率が8割、9割と高くなると利用時に空いていないのではと不安に思って使えないと感じてしまうところがあり、難しいところがあると思います。ある程度余裕があって、いつでも使える環境の中で少しずつ増やしていくこともあると思います。

よろしいでしょうか。報告（３）については、以上にさせていただきます。

報告（４）福井鉄道第3期支援スキームについて

福井市地域交通課 間所課長より資料説明（報告（４）資料参照）

<意見等>

○座長

はい、ありがとうございます。ご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

○委員（福井県）

資料に沿線3市の役割として、維持修繕費の費用負担について記載されています。括弧書きで「特別な費用が発生した場合」とあり、例えば今回の電気料のアップはこれに当たらないと解釈するのか。やはり、電気料のアップを運賃でカバーできるのかどうか。支援する限りは安全運行の確保がありますので、設備更新や維持修繕に活用して頂きたいので、どのようなお考えですか。

○事務局

電気料については、今のところ考えておりません。維持修繕への支援に使って頂きたいので、電気料については別途の協議になると考えています。

○委員（福井県）

電気料のアップは、運賃アップでカバーすると考えてよろしいでしょうか。

○委員（福井鉄道）

通常電気料の値上げ等については、運賃でカバーするのが一般的な原則だと考えています。ただし、今回の電気料の値上げについては、想定を超える大幅な値上げですので、私どもの努力だけでは対応が難しいため、運賃の値上げを考えており、あわせて行政支援をお願いしたいと考えています。

○座長

今年度で第2期が終了し、来年度から第3期に入ることになります。設備更新は今後も続いていくもので、あの手この手で利用者を増やしていく必要があります。しっかりと沿線市町、県、国で支えていくということで支援を続けていくということになります。

○委員（鯖江市サポート団体）

第3期の支援額をみますと5年間で33.6億円を支援するとなっています。このうち、設備更新が24.6億円、維持修繕が9億円で福井、鯖江、越前の3市で支援することになっています。設備更新すればその維持管理にも費用が必要になります。この5年間にこれだけの支援をすることになりますが、その先の5年後はどのようにお考えでしょうか。

○事務局

令和10年度以降のことになりますが、国、県、市がどのように支援するかはその段階でのことになると思います。行政の支援は、安定した運行のためには必要だと考えています。

○委員（鯖江市サポート団体）

安全運行を基本とすることは、それでよいと思います。利用者数の目標220万人を達成するために、利用客を増やしていく努力が必要です。設備更新の24.6億円を国と県が支援することになっていますが、これは安全な運行をするために必要なのか、利用者数を増やすために必要なのか、どのようにお考えですか。

○事務局

安定した運行のための設備更新としては、例えば変電所や車両の更新があり、それに関する費用として国、県から支援を受けるものと考えています。安定した運行は、利用者数の目標220万人やそれ以上の利用につながっていくと考えています。

○座長

ご質問の意図は、この支援額が安定した運行のために最低限必要なものなのか、それに加えて利用者増のための費用を含めたものなのかということではないですか。

○事務局

この支援額は、ハード整備に関するものになります。

○座長

そうなるの基本は安全安心な運行のために必要な費用としての額ということですね。もちろん、安定した運行は利用者増につながる面もあります。第3期支援額は、来年度からの5年間についてのもので、その先も繰り返して支援が行われることが前提なのかについてのご質問だったと思います。先のことですが、今の段階でのお考えをお聞きしたいと思います。

○事務局

令和10年度以降の第4期については、行政としては安定した運行のために支援が必要だと考えています。

○座長

はい、ありがとうございます。国、県、沿線市での支援の枠組みだと思います。県、沿線市は今回のご報告の内容でよろしいでしょうか。

ただいま、令和5年度からの支援スキームについて、ご報告がありましたが、村田社長から一言頂けますか。

○委員（福井鉄道）

今程は、福井鉄道への第3期支援スキームにつきまして、ご検討を頂きましてありがとうございました。平成20年から29年までの第1期支援スキーム、平成30年から令和4年度までの第2期スキームに引き続きまして、今回第3期支援スキームを決定して頂きありがとうございました。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けまして厳しい状況が続いておりますが、利用者200万人は達成いたしました。今回第3期スキームでは220万人という目標を掲げておりますが、皆様のご支援を頂きながら進めていきたいと考えています。

第3期支援スキームにつきましては、安全安心な鉄道となりますように線路、電路、車両等の設備更新、保守管理を適正に行うことによって安全運行を行います。これによって利用者増を図ります。同時に私ども、あるいは沿線市町の皆さんと協力して利用促進を図っていくことを考えています。皆様のご協力を頂きながら目標の220万人を達成に向けてがんばっていきたくと考えています。よろしく願います。

○座長

はい、ありがとうございました。報告(4)につきましては、以上で終了させていただきます。

協議(1) 福井鉄道交通圏地域公共交通計画(案)について

福井市地域交通課 問所課長より資料説明(協議(1)資料参照)

< 質疑応答 >

○座長

はい、ありがとうございます。ご質問、ご意見等ございましたら願います。

○委員（鯖江市サポート団体）

計画の将来像として「北陸新幹線の開業に伴う観光誘客の推進」のもと4つの目標を設定しています。新幹線となると首都圏からの観光利用に目がいきますが、一方で中京、関西方面からの観光利用に対してのPRなどはどのように対応するのか。二次交通をどのようにしていくかが見えてないと思います。

○事務局

北陸新幹線の開業ということで東京方面を主に考えているところがあります。福井の観光客は、中京、関西方面から多く来て頂いており、今後も引き続き観光誘客を行っていくように考えています。新幹線開業後は、福井に来て頂く選択肢が増えることとなります。鉄道を使って福井に来て頂き、観光地へは二次交通を使って頂くようなPRを関東、関西、中京に向けて行っていく必要があると考えています。

○委員（福井鉄道）

観光施策につきましては、私どもを中心に、あるいは私どもを交えて今後推進したいと考えています。新幹線開業は大きなインパクトになりますので、関東方面、信州、長野方面から多くの方が来られることとなります。現在もそうですが、例えば、大阪方面あるいは山陽方面からツアーで敦賀など嶺南に来られた方々が、福井鉄道に乗車したい、車両工場を見学したいということで多くの利用を頂いています。今回、越前市では鉄道ミュージアムの充実ということで、北府駅で200系車両の展示を行っています。これらを1つのケースとして幅広い仕掛けづくりを進めていきたいと考えています。

○委員（鯖江市サポート団体）

関西、中京方面などからの場合、乗り継ぎが重要になるため、検討を進めてほしいと思います。

○座長

関東方面だけでなく、関西方面からの観光利用に対して交通圏のなかでの鉄道の役割についてのご指摘だと思います。福井の交通ということで、ハピラインやえちぜん鉄道を含めて認識して頂くことが重要だと思います。

計画の主要施策については、前回計画と基本的な枠組みは変わっておらず、施策数が64施策から69施策に増えています。

他にございませんでしょうか。

それでは、先程事務局からご説明がりましたが、計画の提出先である国と最終調整による訂正等につきましては、座長にご一任頂き、計画として取りまとめることとしてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、そのようにとりまとめることとします。

計画の策定にあたっては、協議会委員や作業部会の皆様に多大なるご尽力頂き、改めてお礼を申し上げたいと思います。また、パブリックコメントで頂いたご意見についても検討して頂きたいと思います。

今程、事務局から支援スキームや計画についてご説明を頂きましたが、行政の皆様からも一言ずつ頂いてもよろしいでしょうか。

○会長（福井市 代理：桑原都市戦略部長）

地域公共交通につきましては、国でも再構築に向けた議論が始まってきています。それらを含めまして、今後の運営について要望していきたくと考えています。その中で、福井鉄道については、3期目となる支援スキームについて、国の補助を頂きながら県と沿線市で計画したところです。今までは、支援スキーム以外に、例えば、コロナ禍における運営について、支援スキームとは違った形で県、沿線市町で行ってきました。また、電気料の高騰につきましても、支援ということで県とあわせて助成支援を計画しているところです。今後、福井鉄道の適正な運営、安全・安心な運行を行っていきたくと考えています。そのうえで、この地域公共交通計画に基づきまして、みなさんといっしょに取り組んでいきたくと考えています。今後ともよろしくお願ひします。

○副会長（鯖江市 代理：宮田政策経営部長）

福井鉄道福武線は、通勤通学はもちろん、通院、買物など住民の日常生活に欠かせない移動手段として、このコロナ禍においても多くの方に利用頂いている重要な公共交通機関であり、県と沿線3市が一体となって支えていくことは重要と認識しています。経営が厳しい中において、福井鉄道では収支安定や利用促進に向け様々なご尽力を行って頂いていることは十分理解しておりますが、市民や利用者にもその姿勢が伝わるよう、より一層の情報の発信に努めて頂くことを期待しているところです。

○副会長（越前市 代理：西野企画部長）

本日、3人の職員が福武線を利用して来ました。昼間の時間帯では高校生の利用が多いと感じました。交通弱者にとっては、移動手段として必要なものであると再認識したところです。沿線3市においては、先般この3期の支援スキームの支援について合意に達したところで、その予算について3月の市議会に上程させて頂き、土地無償貸与につきましても議案として提案させて頂いたところです。

しかし、今回のパブリックコメントの中で福井鉄道株式会社におきまして、住民の期待に応えるべく安全安心な運行に努めて頂きたいということで、社員の意識改革、会社のイメージチェンジなどに取り組んで頂けたらというご意見を頂きました。日々社員教育に熱心に取り組まれていることと思いますが、「地域に親しまれ共に育む公共交通」ということのでございますので、会社の皆様方、地域住民の方々がいっしょになって取り組むことが大事かと思うところがございます。是非とも、私どもといっしょに取り組みを強化して頂きたいと思っております。

「越前武生駅」の名前は、新幹線新駅にお譲りしたため、2月25日から「たけふ新駅」の名前になります。今その準備を進めているところを目にして、いろいろと変わっていくという印象を持ったところです。今後も国、県といっしょにがんばっていきたくと思ひますのでよろしくお願ひします。

○委員（福井県）

鉄道は安全が第一ですので、安全運行のために県と沿線市町でスクラムを組んで、物価上昇を踏まえてこれまでの同様以上の支援を行っていきたいと考えています。第3期支援スキーム以外で、県議会に交通系 IC カードの導入、レトラム改修を上程しています。今回、思い切った予算を組んでおり、乗客の利便性向上、乗客増に活かして頂きたいと考えています。鉄道を取り巻く環境は人口減少、物価高で電気料の高騰など厳しい状況にあって、新幹線開業を機に定期外利用者の増加に努めて頂きたいと思います。

ハピラインふくい、えちぜん鉄道の3つ鉄道で協力できるところは協力して、利用者増、コスト節約などに取り組んで頂きたいと思います。最期になりますが、鉄道、バス、タクシーなど公共交通関係で人材を確保できないといわれています。福井鉄道におきましても、物価上昇に対応した人件費をお願いしたいと思います。

○座長

はい、ありがとうございました。沿線市、県から力強い言葉を頂けたと思います。今回の計画では、安全で皆さんに親しまれるということを将来像にしています。地域の皆さんに真に愛され、未永く使われ続ける交通機関となるよう関係者の皆さんのご協力を頂きたいと思います。

利用される方がそのように感じて利用して頂くことが大事になりますので、サポート団体の皆様からも一言ずつ頂いてもよろしいでしょうか。

○委員（福井市サポート団体）

県の方がおっしゃったように人口減少、高齢化が進んでいます。福武線の利用促進ということで、公共交通のネットワーク図を見ていると、福武線とバスをつなげて利便性を高めて頂いて、福武線沿線以外に住んでいる人に福武線を利用して頂く、そのことで地域全体の生活がしやすくなるということも大事だと思います。私ども考えていきたいと思えますし、福井鉄道はじめ行政の方にも工夫をお願いしたいと思います。

○委員（鯖江市サポート団体）

鯖江市民の皆さんのお考えをお聞きしますと、行政支援として多くの金額が使われる。これが税金の無駄使いとならないように、福武線を利用する方が満足できるものにしてほしいと思います。それを目指しながら、まちづくりを考えていくことが重要だと思います。

○座長

はい、ありがとうございました。鉄道だけでなく、フィーダーとしてつながる路線バスやコミュニティバス、タクシーなどが協調することで、鉄道沿線の人だけではなく、その周りの人も利便性を直接的、間接的に享受できるようになれば、そのための費用として皆さんに理解して頂けると思います。それを一歩でも進める5年間にしていけるように皆さんのご協力をお願いしたいと思います。ありがとうございます。

最後になるかもしれませんが、福井鉄道の村田社長からも一言頂けますか。

○委員（福井鉄道）

本日は、福井鉄道交通圏地域公共交通計画の策定を頂きありがとうございました。

福井鉄道交通圏における公共交通ネットワークにつきましては、維持管理に努めるとしながらも、国や県、沿線市、サポート団体のご理解、ご協力を頂きながら、まちづくりも含めて推進していきたいと考えています。北陸新幹線の延伸につきましては、従来の関西、中京、山陽方面からのお客様に加えまして、関東方面からの客が増えることとなります。当社単独ではなく、えちぜん鉄道、ハピラインふくい、京福バス等の交通事業者と連携して二次交通としての役割を果たし、地域のまちづくりや発展に努力していきたいと考えております。ありがとうございました。

○座長

はい、ありがとうございました。えちぜん鉄道の計画を見ますと本計画と重複する項目もあり、同じようなところを目指していると思います。それらを踏まえて皆さんで連携して、同時に前に進めて頂ければよいと思います。ありがとうございます。

以上で、報告事項、協議事項すべて終了させて頂きます。長時間にわたりご協力を頂きありがとうございました。

閉会

了承いただいた計画については国へ提出した後、製本した冊子を各委員へ送付させていただきます。以上、本日の協議会を終了します。

以上